

【概要】コロナ禍における府立学校の業務改善等の取組（令和2～3年度）

（令和4年1月時点集計）

取組内容の主な項目

- 1 行事等の廃止・見直し（148例）
- 2 ICTの有効活用
 - （1）会議や情報共有の合理化（66例）
 - （2）調査・集計等の合理化（29例）
 - （3）学習指導改善・保護者連絡等の合理化（29例）
- 3 部活動の運営改善など（10例）

取 組 内 容

1 行事等の廃止・見直し

- ① 体育祭や文化祭・宿泊行事等、学校行事の中止や短縮、代替行事への変更
→全体の約72%の学校で実施（42校）
- ② 式典の簡素化やオンライン配信等による時間の短縮
→全体の約31%の学校で実施（18校）
- ③ 保護者関係の行事の見直し
 - ・学校説明会のオンライン実施や分散開催
 - ・家庭訪問の中止、又はオンライン実施等への変更
 - ・PTA等の会議のオンライン実施や、広報誌のデータ配付等を実施→全体の約34%の学校で実施（20校）

① 体育祭や文化祭・宿泊行事等の中止や短縮、代替行事への変更

課題：学習合宿と同時期に三者面談や夏の進学補習が重なることで、多くの時間外勤務が発生していた。

➡ **取組効果** 学習合宿に代え校内で進学補習を実施。学習合宿に関わる業務がなくなり、教職員の大幅な負担軽減となった。

課題：学習発表会における準備の負担が大きい。

➡ **取組効果** 学習発表会を音楽会に変更。他校等からの招待は行わず、保護者のみの参観とした。そのため、

- ・授業時間の回復と確保
- ・大道具の準備等が不要となったことで、教職員の負担を軽減
- ・保護者のみの参観とすることで、併せて保護者セミナー等を実施

などの効果があった。

② 式典の簡素化やオンライン配信等による時間の短縮

課題：新型コロナウイルス感染症対策のため、入学式における三密回避が必要。

- ➡ **取組効果** 入学者の呼名と校長による式辞等に限定し、時間毎に人数を分けて実施することで、感染症対策を踏まえての実施ができた。

課題：新型コロナウイルス感染拡大のため、始業式等で体育館等に来ることができない。

- ➡ **取組効果** オンライン会議システムを活用し、始業式等の全校集会を各教室に配信。放送を使う音声のみの実施より話し手が見えるようになり、伝わりやすくなった。

③ 保護者関係の行事の見直し

課題：進学説明会について、教職員の勤務時間外（平日夜）の開催となっていた。

- ➡ **取組効果** 説明会を動画配信にすることで、勤務時間外の開催をせず、都合の良い時に視聴が可能となり、参加人数も大幅に増加した。

課題：PTA関係会議の準備について、時間・費用面での改善を図りたい。

- ➡ **取組効果** グループウェアを活用し、会議資料を各家庭に送付することで、会場確保や紙資料作成、袋詰め、郵送等の負担解消につながった。

2 ICTの有効活用

(1) 会議や情報共有の合理化

① ICT等の活用による、教職員間の打ち合わせや朝礼の廃止・縮減

→全体の約41%の学校で実施（24校）

② ICT等の活用による、会議資料のペーパーレス化・時間縮減

→全体の約45%の学校で実施（26校）

① 教職員間の打ち合わせや朝礼の廃止・縮減

課題：朝礼時における連絡だけでは、時差出勤等のためその場にはいない教職員との情報共有が難しい。

- ➡ **取組効果** 教職員間でグループウェアを活用することで朝礼を廃止。時差出勤等の教職員含め情報共有が可能となり、育児関係の時短勤務等の多様な働き方への支援にもつながった。

② 会議資料のペーパーレス化・時間縮減

課題：多くの教職員が在籍するため、会議における資料作成の負担が大きい。

- ➡ **取組効果** 職員会議は職員室で実施し、自席のパソコンから会議資料を見ることで、用紙の節約や準備作業を大幅に削減。また、オンライン掲示板の活用が促進され、会議が削減された。

(2) 調査・集計等の合理化

→全体の約 36 %の学校で実施（21校）

課題：アンケートや授業評価等の実施における、印刷・集計・未提出者への連絡等の負担が大きい。

- ➡ **取組効果** グループウェアを活用し、アンケートや授業評価等を集約。それまでの印刷・集計・未提出者の連絡等の負担軽減につながった。

課題：考査等の採点業務について、短期間での作業となるため、多くの時間外勤務が発生していた。

- ➡ **取組効果** 自動採点ソフトの試験導入により、短時間で正確な採点・集計が可能となった。また、問題毎の得点率を設定することで、観点別評価にも活かせるようになった。

(3) 学習指導改善・保護者連絡等の合理化

→全体の約 36 %の学校で実施（21校）

課題：コロナ禍において、効果的な家庭学習の課題作成や補習等の準備が必要。

- ➡ **取組効果** グループウェアを活用して、週末等に課題を効果的に配信。また、短時間で集約できることから、授業アンケートを頻繁に実施でき、より効果的な授業につながった。

課題：コロナ禍において、生徒の欠席についての電話の増加や、欠席情報の集約の負担が大きい。

- ➡ **取組効果** 学校ホームページ上の専用フォームに欠席情報を入力してもらうことで、電話対応や欠席理由別の個別集計が不要となり、随時、全教職員で集約情報を共有できるようになった。

課題：コロナ禍における緊急連絡時、その都度、各担任から生徒・保護者へ電話連絡を行っていた。

- ➡ **取組効果** 一斉緊急連絡システムの導入により、電話のかけ直しもなくなり、時間短縮・負担軽減につながった。

3 部活動の運営、その他業務改善

- ◆ 部活動の運営工夫等
- ◆ 部活動指導指針に定める活動時間厳守の徹底
- ◆ 成績表・通知表等における押印・記入内容の省力化・・・など

→全体の約 14 %の学校で実施（8校）

課題：部員の減少に伴い、チームスポーツの成立が困難。併せて顧問の多忙化に拍車がかかっている。

- ➡ **取組効果** 既存の部活動も含め、複数のスポーツが経験できるフリースポーツクラブを創部することで、複数の部活動では人数が増加。また、主顧問・副顧問の役割の明確化により負担の分散につながった。